令和6年度「東京都環境影響評価審議会」第二部会（第1回）議事録

■日時 令和6年7月25日（木） 午後1時30分～午後3時46分

■場所 対面及びオンラインの併用

■出席委員

柳会長、宮越部会長、安立委員、羽染委員、水本委員、宗方委員、保高委員、渡邊委員

■議事内容

GLP昭島プロジェクト【1回目】

⇒ 選定した項目【大気汚染】【騒音・振動】【土壌汚染】【地盤】【水循環】
【生物・生態系】【日影】【電波障害】【風環境】【景観】【史跡・文化財】
【自然との触れ合い活動の場】【廃棄物】及び【温室効果ガス】について、質疑
及び審議を行った。

令和6年度
「東京都環境影響評価審議会」
第二部会（第1回）
速記録

令和6年7月25日（木）
対面及びオンライン併用

(午後 1 時30分 開会)

○石井アセスメント担当課長 定刻になりましたので、東京都環境影響評価審議会第二部会を始めさせていただきます。

本日は御出席をいただき、ありがとうございます。

それでは、本日の委員の出席状況について、事務局から御報告申し上げます。現在、委員12名のうち8名の御出席をいただいております、定足数を満たしております。

これより、令和6年度第1回第二部会の開催をお願いいたします。

なお、本日は傍聴の申し出がございます。

それでは、部会長、よろしくお願いいたします。

○宮越部会長 承知しました。皆さん、本日はよろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、本日は傍聴を希望する方がおられます。なお、本会議の傍聴はWeb上での傍聴のみとなっております。

それでは、傍聴人の方を入室させてください。

(傍聴人入室)

○石井アセスメント担当課長 傍聴人の方が入室されました。

○宮越部会長 ありがとうございます。

では、ただいまから、第二部会を開催いたします。

本日の会議は、次第にありますように、「GLP昭島プロジェクト」環境評価書案に係る質疑及び審議となります。

それでは、次第1の「GLP昭島プロジェクト」環境影響評価書案に係る質疑及び審議を行います。

まず、事業者の方に御出席をいただきます。事業者の方は入室をしてください。

(事業者入室)

○宮越部会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、まず、審議の進め方を御説明します。

審議は、今回を含めて計4回とする予定です。3回目に審議結果をまとめ、4回目は総括審議となります。

また、事業者の出席は、今回を含め3回を予定しています。

今回は1回目の審議となりますので、委員の皆様には御担当いただいている評価項目に限らず、事業計画の内容などを含め、確認したい点や疑問点などについても幅広く質疑を

行っていただきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

では、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○石井アセスメント担当課長 それでは、資料1を御覧ください。

資料1は、「GLP昭島プロジェクト」環境影響評価書案に対する都民の意見書及び事業段階関係市長の意見をまとめたものとなります。

意見書の件数ですが、都民からの意見書は438件ございました。

関係市長からの意見は、昭島市長、立川市長及び武蔵村山市長の3件があり、合計441件の意見がございました。

都民の意見の件数としては非常に多く、また、地域の実情を踏まえた切実な御意見も多数寄せられましたが、部会で御審議いただく時間も確保しなければなりませんので、この資料では主に環境保全の見地からの意見を記載させていただき、この場では可能な限り共通の意見などを要約して御説明いたします。

大変申し訳ありませんが、御承知おきいただければと思います。

まず、(1)環境全般として、市内の渋滞や大気汚染、騒音・振動などで市民の生活はどうか、事業者による説明会にも参加しているが、不安を払拭する説明がされていないとの意見がございました。また、住民の健康・生活・環境に与える影響を軽減し、安心して住み続けることができるようにすることを求めるという意見がございました。

(2)大気汚染として、車両の排気ガスによって周辺の大気汚染が促進される、大気汚染による住民の健康への影響はないのか、交差点やアンダーパス出口の調査がなされていない、環境保全措置の内容の実効性が担保されておらず、措置として不十分であるとの意見がございました。

(3)騒音・振動として、多数の調査地点で環境基準を上回るが、保全対策の効果はあるのかとの意見や、通園、通学時間帯について、現況に比べてどの程度騒音・振動が増大するのかとの意見がございました。

また、データセンターについて、365日・24時間稼働することによる騒音が心配である、建設機械の稼働による騒音・振動の予測は、北側住宅地等に最も建設機械が集中する時期にも行うことを求めるとの意見がございました。

(4)大気汚染、騒音・振動 共通として、新しく走行ルートに加わった『堀向通り』の調査を求める意見や、交通量調査が調査不足ではないかという意見がございました。

(5)土壌汚染として、戦時中、滑走路等であった事業地の土壌調査が手つかずなので、

ボーリング調査等をすべきとの意見や、昭島のブランドである地下水の汚染はないのか、土壌改良材による汚染が懸念されるので、種類と使用量を明確にすることを求めるとの意見がございました。

(6) 地盤として、各建築物が地下水の水位に直接的な影響を及ぼす可能性は小さいと考えるとしているが、その根拠が不明であるとの意見や、ボーリング調査の場所が計画書から変更になったのはなぜかとの意見がございました。

(7) 水循環として、近年の気象の激烈さを見越した確率降水量を用いて貯留能力の試算を行い、評価書へ記載することとの意見や、地表面が大幅に被覆されるので、地下水流動や貯留槽からの雨水浸透との関連性に触れるべきとの意見がございました。

(8) 地盤、水循環 共通として、データセンターは大量の水を使うと聞いているが、昭島市の地下水は大丈夫なのかとの意見や、構造物・舗装部等で流出係数1とすべきではないか、地盤や水循環について、継続的な観測を続けるよう求めるとの意見がございました。

(9) 生物・生態系として、カワセミやフクロウなどが調査で発見されていないため、調査が不十分なのではないかとの意見や、玉川上水のホタルがデータセンターからの光害等でいなくなってしまうのではないか、オオタカの営巣地が担保されても、餌場が壊滅するので、ペアの存続が難しい、ニホンアナグマは高次の消費者として記載されるべき、工事終了後に生物が戻ってくると考えるのは安易な考え方ではないかとの意見がございました。

また、代官山と玉川上水の緑のネットワークが新設道路によって分断される、アンダーパスで野生動物などが移動できるのか、生態系への影響を低くするために、玉川上水等へ日影がかからないよう、建物高さの調整を求める、樹木の保全を求めるとの意見がございました。

(10) 日影として、法律に適合させるだけでなく、住民の健康にも配慮し、建物の高さを低くしてほしいとの意見や、日影の影響する用途地域の規定を適用すべきとの意見がございました。

(11) 電波障害として、現在でも電波が弱いので、災害や有事の際に支障が懸念されるとの意見や、電波障害に対する対応方針など、必要な情報の広報活動の検討・実施を求めるとの意見がございました。

(12) 風環境として、風環境の予測が建物周りだけなので、予測範囲を広げるべきとの

意見や、建設前から変化はないとしているが、個別の調査地点を見比べると大幅に増加、減少している地点があり不安を感じている、建物の並びによる風通しの悪さや、突風の発生はないのかとの意見がございました。

(13)景観として、「玉川上水景観基本軸」に対する解釈が異なるのではないかと意見や、つつじが丘ハイツ上階が調査地点に設定されていない、圧迫感の軽減のため、建物の移動や緑地帯を増やすことを求める、周辺のスカイラインから突出しないという主張は事実誤認であるとの意見がございました。

(14) 史跡・文化財として、埋蔵文化財が確認される可能性があるとして、工事前に周知を促すことを求めるとの意見や、「武藤順九彫刻園」や「昭和の森車屋」が文化財に相当するかの検証を求める、建物によって史跡・文化財である玉川上水の緑地等に影響を与えるのではないかと意見がございました。

(15) 自然との触れ合い活動の場として、生物・多様性保全を優先した上での触れ合い活動であるべきとの意見や、遊歩道について、自然との触れ合いにふさわしい環境整備をするべきとの意見がございました。

(16) 廃棄物として、排出される大量の廃棄物が昭島市廃棄物処理施設の消耗にどの程度影響するのかとの意見や、発生する廃棄物の種類や処理方法、伐採樹木の再資源化方法について、分かりやすい説明を求めるとの意見がございました。

(17) 温室効果ガスとして、使用電力に比べ、太陽光発電の能力が小さいので、水素ガス発電を検討すべきとの意見や、データセンターに使われる電力は膨大なので、そのCO₂排出量も予測・評価し、排出権取引の対象とすべきとの意見がございました。

(18) その他（関係地域）として、車両の走行により、大気汚染、騒音・振動等の影響を受けることは必至である昭島市昭和町等が関係地域に記載されていない、加えて、車両通行量の増加により、環境影響が及ぶと考える迂回ルート周辺エリアについても関係地域に含めるよう求めるとの意見がございました。

また、環境影響評価項目以外の事項としては、その他（事業計画関連）として、都市計画マスタープランに沿った計画にするよう求めるとの意見。

その他（交通関連）として、昭島市の立地や道路状況を完全に無視しているとの意見や、子供たちの安全を守るような対策を講じてほしいとの意見。

その他（環境関連項目）として、データセンターの排熱等についての意見がございました。

多数の意見が寄せられたため、御説明が長くなりましたが、都民からの意見の御説明は以上となります。

次に、関係市長からの意見でございます。

まず、昭島市長からの意見を要約して御説明いたします。

基本的事項として、昭島市総合基本計画等、市のまちづくりや地域特性について十分勘案するとともに、引き続き市と協議協力されたい、また、計画地近隣には小中学校等だけでなく、住宅も多く、子供を初め、計画地付近の通行者も多いため、安全に十分に配慮した対応をされたい、特に車両の走行経路と出入口の安全対策、渋滞防止対策の詳細については、交通管理者等の関係機関と引き続き十分に協議されたいとの意見をいただきました。

次に、環境影響評価の項目及びその他に係るものとしては、大気汚染について、計画的かつ効率的な運行管理の徹底、路上待機禁止、アイドリングストップ等、環境保全措置を徹底されたい、また、入居企業が低NOx機器を確実に採用するよう対応を図られたいとの意見をいただきました。

騒音・振動について、周辺環境への影響が最小限となるよう、工事時間など工事内容への配慮、工事中の環境保全措置の徹底、日曜・祝日や早朝・夜間を避けた時間帯での工事や、入出庫など、環境配慮の視点を更に充実されたい、また、工事中の騒音・振動について、基準を満足する場合においても、更なる環境保全措置を具体的に検討されたいとの意見をいただきました。

土壌汚染について、飛散防止対策を徹底し、周辺環境の保全に努められたいとの意見をいただきました。

地盤、水循環 共通について、市の水道水は、深層地下水を水源としていることから、深層地下水にどのような影響があるのか、事後調査において更なる詳細な調査を検討されたいとの意見をいただきました。

生物・生態系について、できる限り生物に配慮した工事実施により生態系の保全を図り、大きく生態系が変化しないことを前提としたエコロジカル・ネットワーク形成に努められたい、また、既存樹木を最大限活用するとともに、壁面緑化や屋上緑化にも取り組みながら、安定した緑量及び植生を維持されたいとの意見をいただきました。

日影について、日影の影響を及ぼす範囲に低層住宅があることから、影響が少なくなるよう更に配慮されたい、また、日影の変化による生物・生態系及び玉川上水沿いの樹木への影響についても評価されたいとの意見をいただきました。

景観について、「玉川上水景観基本軸」に適合することはもちろん、周辺環境との調和を図るよう最大限配慮されたい、北側や南側の既設市街地からの近景に大きく影響を与えることから、建物の壁面緑化など、影響低減策や建物デザインの工夫等を検討されたいとの意見をいただきました。

自然との触れ合い活動の場について、自然との触れ合い活動の場までの利用経路について、危険箇所を十分認識し、必要な対策を検討されたい、また、緑道の接続に当たっては、上水公園の現環境を崩すことがないように市と十分協議されたいとの意見をいただきました。

廃棄物について、伐採した樹木は、最大限再資源化するとともに、その利用法を具体的に明記されたいとの意見をいただきました。

温室効果ガスについて、温室効果ガス排出量の削減目標達成のために、本開発においても一層の排出量削減に努められたい、物流センター等で受電する電気は、積極的に再生可能エネルギー100%由来の電気を調達されたい、施設建設だけでなく、想定される交通量増加による影響も予測評価されたいとの意見をいただきました。

その他として、事業期間が長期にわたるため、住民等へ十分説明し、理解が得られるようにするとともに、相談窓口を明確化し、苦情等に対して真摯に対応すること、工事用車両や関連車両の削減に最大限努力することなどの意見をいただきました。

次に、立川市長からの意見を要約して御説明いたします。

まず、総論として、関連車両の走行ルートについて、計画地周辺の道路及び土地利用状況を把握した上で、交通安全の確保や交通渋滞の発生抑制の観点から、高規格道路を主要な輸送ルートに設定することを求める、交通安全対策について、万全の対策を実施すべきと考えるが、十分とは認められないところがあるため、安全対策の追加を検討し、評価書に明記されたい、また、十分な説明と情報提供を行い、意見・要望等に対して真摯に対応されたいとの意見をいただきました。

次に、環境影響評価の項目及びその他に係るものとしては、騒音・振動として、関連車両の総交通量を抑制するとともに、宮沢中央通り及び松中通りの交通量を分散させるなど、騒音の低減に努められたい、また、環境保全措置について、具体的な取組内容を評価書の中に示されたいとの意見をいただきました。

景観として、玉川上水北側からの眺望を意識して、圧迫感を軽減した良好な景観の形成に努められたいとの意見をいただきました。

温室効果ガスとして、施設稼働後の室外機からの温風によるヒートアイランド現象が懸

念されることから、ヒートアイランド現象防止に努められたいとの意見をいただきました。

また、その他として、交通渋滞に伴う生活環境に関する調査・評価を実施し、適切な環境保全措置に努められたいとの御意見をいただきました。

最後に、武蔵村山市長からの意見を要約して御説明いたします。

大気汚染として、工事期間中は、排ガス規制に適合した工事車両を使用するとともに、アイドリングストップの励行に努めていただきたい。

電波障害として、工事完了後の建物による電波障害を可能な限り回避、低減していただきたい。

廃棄物として、建築廃棄物の再利用及び再資源化を推進し、廃棄物の減量に努めていただきたい。

温室効果ガスとして、施設の供用に伴う温室効果ガスの排出量削減に努めていただきたいなどの意見をいただきました。

環境影響評価書案に係る見解書において、事業者の見解が記載されていますので、詳細はそちらを御覧いただければと思います。

長くなりましたが、都民の意見及び関係市長の意見の説明は以上となります。

なお、本件に関しましては、評価書案の縦覧を1月30日から2月28日まで、都民等からの意見募集を3月14日まで実施しました。

見解書につきましては、8月6日から8月26日まで縦覧を行う予定となっております。よろしく願いいたします。

○宮越部会長 ありがとうございます。

では、ただいまの事務局からの資料1の説明について、御質問等、委員の皆様からございましたら、お願いいたします。

なお、事業内容や評価書案に係る質問については、このあとの事業者の説明のあとにお願いいたします。

皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(無し)

○宮越部会長 では、特に御発言がないようですので、次に、事業者から各選定項目の予測、評価についての説明をお願いいたします。

なお、Webによるオンライン会議でもありますので、説明される事業者の方は、冒頭で自己紹介をしていただき、併せて、ほかの出席者についても御紹介ください。その上で御

説明をお願いいたします。

よろしく申し上げます。

○事業者 事業者でございます日本G L Pと申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日一緒に来ておりますのが、株式会社オオバでございます。

内容について説明をさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

○事業者 それでは、評価書案を用いて、事業概要と、環境面でポイントとなる箇所、それから、予測評価の結果で特筆すべき部分に絞って御説明させていただきます。

まず、事業概要についてです。

評価書案の6-10ページを御覧ください。

本事業は、東京都昭島市にあるゴルフ場、ゴルフ練習場及び既存の宿泊施設の跡地において、物流施設及びデータセンターを建設するための土地の造成を行うものです。

計画敷地面積は約58.8ha、全域が準工業地域に指定されています。

計画地は、はなみずき通りを挟んで東西に分かれた敷地形状となっており、東側敷地には物流施設1棟、データセンター7棟の用地を整備します。

西側敷地には、物流施設2棟、データセンター1棟のほか、地域住民の方々にも利用していただける地域貢献棟と公園を整備します。

また、計画地内を東西に貫く新設道路を整備する計画となっています。

本事業では、代官山緑地を中心とした緑の拠点を創出し、玉川上水の緑地と代官山緑地をつなぐ緑のネットワーク形成に努めるため、土地利用や施設配置を検討しております。

続きまして、評価書案の7-2ページを御覧ください。

今回選定した項目は、大気汚染、騒音・振動などの計14項目です。

各項目について、環境影響要因と照らし合わせ、表中で丸をつけた事項について予測評価を行っております。

ここからは、各項目の具体的な予測評価の結果について御説明させていただきます。

まず、大気汚染です。

評価書案の8.1-93ページに、建設機械の稼働に伴う予測・評価の結果を示しております。

最大寄与濃度出現地点において、二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果と、評価の指標とした環境基準を満足しています。

続いて、8.1-94ページに、造成工事に伴う一般粉じんの予測・評価の結果を示しています。

計画地周辺の公園や保育施設付近などの計8地点において、月当たりの降下ばいじん量は、いずれの工種、季節の予測結果とも、評価の指標とした参考値を満足しています。

続いて、8.1-96、97ページに、工事用車両の走行に伴う予測・評価の結果を示しています。

二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果は、全ての地点で評価の指標とした環境基準を満足しています。

続いて、8.1-98ページに、設備の稼働に伴う予測・評価の結果を示しています。

最大寄与濃度出現地点において、二酸化窒素の予測結果は、評価の指標とした環境基準を満足しています。

続いて、8.1-99ページに、駐車場等の供用に伴う予測・評価の結果を示しています。

こちらも最大寄与濃度出現地点において、二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果は、全ての地点で評価の指標とした環境基準を満たしています。

続いて、8.1-101、102ページに、関連車両の走行に伴う予測・評価の結果を示しています。

二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果は、全ての地点で評価の指標とした環境基準を満足しています。

次に、騒音・振動について御説明いたします。

評価書案の8.2-81ページに、建設機械の稼働に伴う予測・評価の結果をお示ししています。

造成工事のピーク時と建築工事のピーク時における敷地境界線上における最大値は、騒音レベル、振動レベルとも、評価の指標とした環境確保条例の基準を満足しています。

続いて、8.2-82、84ページに、工事用車両の走行に伴う予測・評価の結果を示しています。

8.2-82ページに示す騒音レベルの評価結果は、予測地点とした21地点のうち11地点で環境基準を満足しています。

No. 1、5、9、10、13、14の6地点については、現況交通量による騒音レベルが環境基準の値とおおむね同値であり、工事用車両が走行することにより、環境基準を上回ると予測しています。

また、No. 2、3、15、16の4地点については、現況交通量による騒音レベルが既に環境基準を上回っている状況となっています。

全ての予測結果について、要請限度は満足しますが、環境基準を上回る予測地点があることから、工事の実施に当たっては、工事用車両の計画的かつ効率的な運行管理に努めるとともに、車両のアイドリングストップを周知徹底することなどにより、影響の低減に努めてまいります。

以上より、評価の指標とした現況を著しく悪化させないことを満足するものと考えています。

なお、8.2-84ページに示す工事用車両の走行に伴う振動レベルの評価結果は、全ての地点で昼間、夜間ともに、評価の指標とした規制基準を満足しています。

続いて、8.2-85ページに、設備の稼働に伴う騒音の予測評価の結果を示しています。

最大値出現地点において、予測結果は、昼夜とも、評価の指標とした規制基準を満足しています。

併せて、8.2-68、69ページを御覧ください。

計画地は準工業地域ですが、周辺に住居系の用途地域や学校などが存在しているため、一部敷地境界における規制基準の値が厳しくなる部分があります。しかしながら、最大値出現地点以外の敷地境界線上の騒音レベルについても、規制基準を上回ることはないと予測しています。

続いて、8.2-88、89ページに、関連車両の走行に伴う騒音レベルの予測評価の結果をお示ししています。

8.2-88ページに示す平日昼間の評価結果は、予測地点21地点のうち、11地点で環境基準を満足します。

No. 1、5、9、10、13、14の6地点については、現況交通量による騒音レベルが環境基準とおおむね同値であり、関連車両が走行することにより、環境基準を上回ると予測しています。

また、No. 2、3、15、16の4地点については、現況交通量による騒音レベルが既に環境基準を上回っている状況となっています。

平日夜間の評価結果は、予測地点21地点のうち10地点で環境基準を満足しています。

No. 1、7、8の3地点については、現況交通量による騒音レベルが環境基準とおおむね同値であり、関連車両が走行することにより、環境基準を上回ると予測しています。

なお、No. 13については、現況交通量に対して増加する関連車両が多いことから、騒音レベルの増加分が比較的大きくなり、環境基準を上回ると予測しています。

また、No. 2、3、5、9、10、15、16の7地点については、現況交通量による騒音レベルが既に環境基準を上回っている状況となっています。

8.2-89ページに示す休日昼間の評価結果は、予測地点21地点のうち、12地点で環境基準を満足します。

No. 5、9、10、16の4地点については、現況交通量による騒音レベルが環境基準とおおむね同値であり、関連車両が走行することにより、環境基準を上回ると予測しています。

なお、No. 1、13の2地点については、現況交通量に対して増加する関連車両が多いことから、騒音レベルの増加分が比較的大きくなり、環境基準を上回ると予測しています。

また、No. 2、3、15の3地点については、現況交通量による騒音レベルが既に環境基準を上回っている状況となっています。

次に、休日・夜間の評価結果は、予測地点21地点のうち、10地点で環境基準を満足いたします。

No. 7、8、16の3地点については、現況交通量による騒音レベルが環境基準とおおむね同値であり、関連車両が走行することにより、環境基準を上回ると予測しています。

No. 1、13の2地点については、現況交通量に対して増加する関連車両が多いことから、騒音レベルの増加分が比較的大きくなり、環境基準を上回ると予測しています。

また、No. 2、3、5、9、10、15の6地点については、現況交通量による騒音レベルが既に環境基準を上回っている状況となっています。

全ての予測結果について、要請限度は満足しますが、環境基準を上回る予測地点があることから、工事の完了後においては、入居企業に対し物流車両及び従業員の通勤車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理や、車両のアイドリングストップの周知徹底に努めるなどの働きかけを行うことにより、影響の低減に努めていきます。

なお、環境基準を上回る予測地点については、沿道周辺に存在する教育施設、福祉関連施設などに十分配慮し、これらの働きかけを確実に実施することにより、影響の低減を図っていきます。

以上より、評価の指標とした現況を著しく悪化させないことを満足するものと考えています。

8.2-91、92ページに示す、関連車両の走行に伴う振動レベルの評価結果は、全ての地点で平日、休日の昼間、夜間ともに、評価の指標とした規制基準を満足しています。

続いて、8.2-93、94ページに、設備の稼働に伴う低周波音の予測評価の結果を示しています。

最大値出現地点において、G特性音圧レベル、3分の1オクターブバンド音圧レベルとも、評価の指標とした感覚閾値及び物的苦情に関する参照値を満足しています。

次に、土壌汚染についてです。

評価書案の8.3-5ページを御覧ください。

計画地における土地利用の履歴などの調査から、農薬希釈作業場付近と給油施設付近、昭和20年頃に整備工場などの敷地とされていた区域の範囲などにおいて、土壌が汚染されている可能性が否定できないことから、本事業では、工事開始前までに土壌汚染対策法及び環境確保条例に基づく適切な手続を実施する計画です。

以上より、評価の指標とした、新たな地域に土壌汚染を拡散させないことを満足すると考えます。

次に、地盤についてです。

評価書案の8.4-33ページの模式図を御覧ください。

本事業では、計画建築物の根切底や、基礎工事における親杭の標高が降水期における最も浅い地下水位よりも高い標高に位置することなどから、地下水の水位や流況の変化が地盤沈下を生じさせるおそれは小さいと予測しています。

工事の施行中は、適宜、観測井による地下水位の変動の把握に努め、異常があった場合には適切に対処する計画です。

工事の完了後には、計画地に降った雨水は、昭島市宅地開発等指導要綱に基づき、本事業で整備する雨水浸透施設により、全量を地下に浸透させる計画です。

さらに、地下水の揚水を行わない計画としています。

以上より、評価の指標を満足すると考えます。

次に、水循環についてです。

評価書案の8.5-14ページを御覧ください。

先ほどの地盤の予測評価結果と同様に、地下水の水位等の変化の程度については、工事の施行中、完了後ともに、評価の指標とした地下水等の状況に著しい影響を及ぼさないことを満足すると考えます。

また、8.5-15、16ページに示す地下水涵養量と表面流出量の変化の程度については、工事の完了後においては、現況と比べて雨水が地下に浸透していく過程や、表面流出量は変

化しますが、本事業で整備する雨水浸透施設により、雨水は全量地下に浸透させる計画であるため、評価の指標を満足するものと考えます。

次に、生物・生態系についてです。

まず、評価書案の8.6-123ページ、緑の量として、緑被率の変化の内容及びその程度について御説明いたします。

本事業の実施により、計画地内の大部分を占めている旧ゴルフ場の人工草地や残存植栽樹群が改変され、計画地の緑被率は現況の89.7%から減少しますが、計画地内に公園や残存緑地、新設緑地などの整備を行うことにより、工事の完了後における緑被率は20.6%、12.12haになると予測しています。

次に、評価書案の8.6-108ページを御覧ください。

計画地内で確認されたニホンアナグマについて、本事業の実施により、主な生息環境となっている計画地内の植栽地の大部分は消失しますが、工事の完了後には、計画地内に残存緑地や新設緑地を整備することにより、土地の改変や生息基盤の改変の抑制に努め、代官山緑地や玉川上水沿いの樹林などと連続した緑のネットワークを形成する計画です。

また、新設道路の地下に代官山緑地と計画地内の公園とをつなぐアニマルパス、動物用の道路横断施設を整備する検討を進めています。

以上より、ニホンアナグマの生息環境の変化の程度については軽減が図れると予測しています。

次に、評価書案の8.6-127ページを御覧ください。

代官山緑地に営巣するオオタカについても、本事業の実施により、主な生息環境となっている計画地内の植栽地の大部分は消失し、営巣中心域が一部縮小します。そのため、代官山緑地や玉川上水沿いの樹林などと連続した緑のネットワークを形成するとともに、代官山緑地の北側に整備する公園に計画地内の樹木を移植することなどにより、樹林環境のポテンシャルを高めるとともに、代官山緑地や玉川上水沿いの樹林との連続性や飛翔空間、また、採食地となる開けた空間の創出に努めていきます。

また、工事の施行中においても、工事の段階的な実施や、低騒音型建設機械の採用など、オオタカの営巣や生息に配慮した工事方法の採用に努めていきます。

以上より、オオタカの生息環境の変化の程度について軽減が図れていると予測しています。

次に、日影についてです。

評価書案の8.7-21及び22ページを御覧ください。

冬至日の8時から16時の時間帯における平均地盤面±0 mの高さにおける計画建築物の等時間日影は、計画地北側に隣接する玉川上水、玉川上水緑道に最長で5時間以上の日影を及ぼすと予測しますが、配慮が必要な福祉施設など、北側の住宅地については、3時間以上の日影を及ぼすことはないと予測しています。

また、8.7-31～38ページには、日影の法規制図を掲載しています。

冬至日の平均地盤面+4 mの高さにおける計画建築物の日影は、評価の指標とした日影規制の基準を満足すると考えます。

次に、電波障害についてです。

評価書案の8.8-10、11ページを御覧ください。

本事業の計画建築物により、計画地外にテレビ電波の遮蔽障害が生じる可能性があるとして予測しますが、テレビ電波障害が発生した場合には、適切な電波受信障害対策を講じることにより、テレビ電波障害の影響は解消すると考えています。

以上より、評価の指標を満足すると考えます。

次に、風環境についてです。

評価書案の8.9-30ページを御覧ください。

本事業の計画建築物の建設後において、計画地内及び周辺の風環境は、建設前と比較して、予測地点における風環境評価のランクに変化は生じず、計画建築物の建設後でも、住宅街、公園等として許容される風環境であると予測します。

さらに、計画地内の移植樹木や、新設緑地などへの新植樹木による更なる風の低減効果が見込めることから、評価の指標を満足すると考えます。

次に、景観についてです。

評価書案の8.10-34～73ページを御覧ください。

眺望の変化の程度については、予測地点28地点、全42カットのフォトモンタージュを行っています。

工事の完了後の計画地近傍の眺望の変化は、玉川上水や玉川上水緑道沿いの樹木と計画地外周に現位置保存する樹木等で一定程度覆われるため、大きな変化はないと考えます。

計画地周辺に広がる市街地景観に対しては、計画建築物が市街地を構成する既存建物で形成されるスカイラインから大きく突出しないと考えます。

さらに、「玉川上水景観基本軸」の景観形成基準に基づき、計画建築物の色彩や意匠を

検討するとともに、残存、移植、新植樹木による眺望、圧迫感の変化の軽減に努めていきます。

さらに、玉川上水沿いに配置する計画建築物の外壁の位置を敷地境界からセットバックし、計画建築物を分棟、雁行配置にするなどの工夫を行う計画としています。

以上より、評価の指標を満足すると考えます。

次に、史跡・文化財についてです。

評価書案の8.11-3ページを御覧ください。

計画地北側には国指定史跡の玉川上水が接しています。本事業では、玉川上水敷地を改変する工事は実施しません。

さらに、玉川上水沿いの地形、植生等への環境配慮から、玉川上水と接する計画地北側は現地形や樹木を生かした残存緑地とし、工事の完了後は玉川上水沿いに残存緑地を生かした緑道及び散策路を整備していきます。

以上より、評価の指標を満足するものと考えます。

次に、自然との触れ合い活動の場についてです。

評価書案の8.12-26ページを御覧ください。

自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響については、工事用車両及び施設関連車両の走行ルート上では、歩車分離施設がおおむね整っていることから、利用経路上での安全性は確保されるものと予測しています。

また、工事の施行中は、仮囲いによる安全性の確保を行うほか、計画地外周部の既存樹木を可能な限り残存させることなどにより、自然との触れ合い活動の場が持つ機能に及ぼす影響は低減できるものと考えます。

工事の完了後は、8.12-28ページに示すとおり、玉川上水沿いに残存緑地を生かした緑道及び散策路を確保していくことで、地域の自然との触れ合い活動の場が持つ機能はより充実したものになると予測しています。

以上より、評価の指標を満足するものと考えます。

次に、廃棄物についてです。

評価書案の8.13-19及び20ページを御覧ください。

工事の施行中に発生する廃棄物は、解体に伴う建設廃棄物などの発生量及び伐採樹木量で約52,000 t、再資源化等量は約51,000 tと予測しています。

また、建設工事に伴う建設廃棄物の発生量は約45,000 t、再資源化等量は約43,000 tと

予測しています。

建設発生土の排出量は約400,000m³、再利用率は約350,000m³と予測しています。

建設廃棄物は分別を徹底し、再利用、再資源化等に努めるとともに、再利用、再資源化等が困難なものについては、適正に処理していきます。

建設発生土は、受入機関の受入基準との適合を確認した上で、場外搬出するなど、適正に処理していきます。

続いて、8.13-24ページを御覧ください。

工事の完了後の廃棄物発生量は年間約4,300 tであり、このうち再資源化等量は、合計で年間約1,600 tと予測しています。

廃棄物は適正分別して、保管場所の管理を徹底するよう、入居企業に協力を促していきます。

以上より、評価の指標を満足するものと考えます。

次に、温室効果ガスについてです。

評価書案の8.14-22ページを御覧ください。

計画建築物の二酸化炭素排出量は、年間で約1,790,000 tであり、基準建築物と比較した場合の削減量は、年間で約400,000 t、削減率は約18.1%と予測しています。

本事業では、計画建築物の空調、照明などの設備機器は、導入時点での最新の高効率機器を採用することとし、特にデータセンターにおいては、PUE 1.4以下の高効率な施設として設計していくことから、温室効果ガスの排出抑制が図られると予測しています。

以上より、評価の指標を満足するものと考えております。

以上で評価書案の御説明を終わりにいたします。

○宮越部会長 ありがとうございます。

では、ただいまの事業者からの説明について、委員の皆様から御質問、御意見を願います。皆様いかがでしょうか。

渡邊委員、お願いいたします。

○渡邊委員 事前に幾つか質問をお送りしていたかと思いますが、改めて伺いたい点が幾つかあります。

まず、温室効果ガスと直接関係するわけではありませんが、駐車場の設置です。この駐車場は、物流センターで使う車が使用するものだと思いますが、具体的に例えばEVを使うということで施設を整備されるのかどうかを伺いたいのが1点です。

あと、次も温室効果ガスと関係がないので先に伺いますと、工場もつくられるという話になっていたと思いますが、これはもう、入る施設が決まっているという理解でよろしいですか。

まずはこの2点を伺ってから、温室効果ガスについて伺います。

○事業者 日本GLPです。駐車場につきまして、電気自動車がかかるのかどうかですが、お話をいただきましたとおり、物流施設、それから、データセンターも一部含みますが、中に入ってくださいますテナント様で運用していく車という形になります。

ですので、全てが電気自動車になるかどうかは、現時点では私どもから申し上げることができない状態です。

一方で、やはり今、電気自動車の数が増えていく状況でございますので、私ども施設側として、電気自動車の充電ができるような設備を設けて、そういったことにきちんと対応できるようにしておくことについて、やっていきたいと考えております。

それからもう1点、工場につきましては、いわゆる工場という形ではなくて、物流施設の中で一部組立や加工というようなものが発生した場合に、工場という取扱いになる可能性がございますので、ここでは「工場」という表記をさせていただいておりますが、現在、具体的にどこかの、いわゆる工場が決まっているということではございません。

以上でございます。

○渡邊委員 分かりました。

そうすると、仮に、駐車場に関しては、使用する車が全てEVだったとしても対応できるようなインフラを、とりあえずは整えてくださるという理解でよいかというのが、追加の質問です。

あともう一つは、温室効果ガスとも関連するところですが、既に入居するテナントは、ほぼ目途がついているような状況なのですか。それとも、そこはまだ全然オープンなのですか。

○事業者 まず、全てEVが来たときに対応できるか否かという点につきましては、それはまだ今後の話で、今何も決まっておられません。現状は、例えば全て来て、必ずそこで充電をするようなレベル感での電気容量等は、現時点では見込んでいない状況ではございます。

一方で、需要が高まってくることがあれば、当然それに合わせて検討していく形になるかなと思っております。

それから、中に入られるテナント様につきましては、現時点では全て未定でございます。

○渡邊委員 分かりました。

それで、あと温室効果ガスについて幾つか伺いたいことがあるのですが。

まず、計算の部分は非常に、予測をいろいろ出してくださっているので、逆にすぐ評価をしやすいので、それはありがたいと思いました。

それで、PUEなのですが、1.4以下という書き方になっていて、これも省エネ法で2030年1.4というのが決まっているので、1.4以下と言われると、省エネ法は充足してもらえるのだろうなというところしか分からないのですね。

長く使うものだと思いますし、あと質問したときにも書いたと思いますが、GLPの本拠地であるシンガポールですと、今1.3以上のものは建てられないということにたしかになっていますよね。なので、世界基準で見ると、今日本の基準が少々緩いというか、遅れている状況にもあるので、やはりもう少し上げていただきたいというのが本当のところですね。

ただ、そうは言っても、こちらの施設を建設する側で確保できる部分と、テナントに委ねてしまう部分というか、テナント次第という部分があって、省エネ法上の計画提出も、全体の建物としての省エネ基準とエネルギー基準等はGLP社が報告することになっているのですが、あとの部分はたしかテナントの側で報告することになっていると思うので、

そちらで対応できるところに限りがあるということは分かっていますが、非常に大きい企業で、ある意味で新しい価値を波及していくだけの力があるところだと思いますので、まだテナントが決まっていないということですが、例えばテナントを選定するときにも、より機器の効率性に配慮したところにするとか、あとは先ほどの物流施設に関しても、決まっていないのであれば、EVをある程度導入するようなどころにするとか、そちらもある意味で影響力で規範を波及していくというような役割も果たしていただきたいなというのもあって、やはりPUEは低めに考えていただきたいと思います。

Google等だと1.1を切るところまで来ているので、ここはやはり頑張っていたきたいというのが1点目です。なので、もう少し下げただけかかどうかというところを伺いたいというところです。

もう1点が、データセンターは今、世界的に見ても、エネルギーを最も消費する、エネルギー消費量が最も拡大している分野なので、非常にこれから脱炭素といったときに規制が難しくなってくるところで、規制しなくてはいけないけれども、需要もあって難しいところなのですよね。

それで、今拝見していて、太陽光も入れていただけるのは非常にありがたいと思うのですが、7,300MWhですかね、入れるのが。使用するエネルギー消費量、電力消費量を私が今ざっと計算をすると、多分29,000MWhぐらい要りますかね。

そうすると、多分4分の1ぐらいしか賄えないという計算になってしまうのですね。もちろんPUE1.7で計算しても29,000MWhぐらいなので、1.4で計算するともう少し下がってきて多分24,000MWhぐらいまで下がってくるのですが、いずれにしても全部は賄えないという状況です。

伺いたいのは、今、物流センター1、2、3の屋根に搭載するという計画になっているのですが、データセンターの屋根は空けておかないといけないのですか。もう少し太陽光発電を入れるということはできないのですかというのが、2番目の質問です。

3番目として、やはり今のデータは非常に電力消費量が多いということで、地方等だと洋上風力と結び合わせて誘致しているところも多いのです。だから残りの電力量というのは外から買ってくるということになってしまうと思いますが、そうなった場合には、通常の電力を買ってくるという計画になってしまうのですか。

この3点をお願いします。

○事業者 GLPです。3点いただいていたかと思います。PUEについてより下げた目標が立てられるのかということと、データセンターの屋根に太陽光を載せられないのかという話と、最終的に外から再エネを買ってくるような仕組みがあるのかということにつきまして、事業者の観点から回答させていただきます。

PUEにつきましては、今、先生から御指摘のありましたとおり、GLPの中でも各国で多少基準が違うところもございまして、各国の基準に合わせて一旦整備をしていくという形になっておりまして、現時点でガタッとこれを下げられるかということ、先ほど御試算もありましたとおり、例えばGoogleであれば、自分たちが運用するものを自分たちでつくられるという形でございますが、あくまで私どもとしては、テナント様に入っていただくような形で、貸す形になりますので、テナントさんの中でこういった機能、機器が使われるかということにつきましては、テナント様のほうでやっていただくというところがどうしてもございます。

そういったところもありまして、なかなか、各国の基準以下にPUEのところを下げていくというところは、現時点では即答できないような形になります。

一方で、中に入られるテナント様につきましても、非常に電気代という形がかかってく

る形になりますので、高効率の機器を入れていくという形が想定されます。

また、やはり大きな意味で、環境に対して同じ方向へ向かっていく、それぞれの企業で持っている環境に対する目標に向けてやっていくというところについては、テナント様の誘致の際には、いろいろと情報交換をさせていただきながら、よりそういったところに共感をしていただくというところを極力探していくということについては、先ほどおっしゃっていただいたような形になるかと思います。

それから、太陽光につきましては、物流施設は非常に屋根が大きいというところがあって、それを生かして全面に敷いていくようなイメージで考えております。

一方で、データセンターにつきましては、建物のフットプリント、建築面積というのがそんなに大きくないのと、屋上の部分に空調の室外機を並べていくという形がございまして、太陽光パネルを置けるスペースがないということもあって、計画をしていない形になっています。

仮にデータセンターに物流施設の太陽光を配っていくという形にしたとしても、やはり全てのエネルギーを賄えないよという形は御指摘のとおりかと思いますが、現状で外から再エネを買ってくるかどうかというところにつきましては、最終的にはCO₂を削減していくという大きな企業目標もありますので、検討していくべき内容だということでは私どもとしても考えておりますが、現時点ではそういったところは未定になっております。

テナント様のほうで、電力をどうするかというところは、テナント様のほうで契約をしていただくという形もありますので、そこについても、施設側としていろいろ話をしていくことはどうかと思いますが、全てコントロールするところは難しい部分であるということでご理解いただければと思っております。

○渡邊委員 分かりました。ありがとうございます。

太陽光に関しましては、いろいろな、ほかの目的で使用しなければいけないところもあると思うのですが、入れられるだけ入れられたほうが、ある意味でそれは電気代にも反映される場所なので、施設としての魅力も高まると思いますので、できるだけ搭載していただきたいというのがお願い、要望です。

あとは、先ほどのテナントについて何か条件をつけていくことができるのかというのは、まさに電力供給についてもいえるところで、一括して施設整備側で再エネで契約してしまえば、かなりテナントに委ねるところが小さくなると思いますので、そういったことも御検討いただきたいと思います。

繰返しになりますが、ほかの地方であれば、洋上風力から系統をそのまま引いてデータセンターを誘致するというようなこともやっけていて、大電力消費施設として電力消費の問題は非常に大きく取り上げられているところですので、こちらの施設も、東京とはいえ、できるだけ温室効果ガスを排出しないような電力消費をお考えいただきたいと思います。

最後になりますが、以前に聞いたときに、都市ガスも利用するけれども、それは調理の部門で使うということをおっしゃっていたかと思います。もしそうであるとすれば、やはりガスを使ってしまうと、そこはもうCO₂を排出してしまうので、本当に調理をするのであれば、オール電化等もお考えいただきたいという点も付記したいと思います。

私からは以上です。ありがとうございます。

○宮越委員 水本委員、お願いいたします。

○水本委員 私からは、史跡・文化財の関係で4つ、そのほかで4つで、8点と多いですが、質問させてください。

確認も含めてですが、まず1点目、史跡・埋蔵文化財関係で、昭島市教育委員会との連携が取れているかという点で質問です。

少し多いので、まとめて質問させてください。

2点目として、ここは史跡玉川上水のことを非常に重要なのですが、玉川上水の範囲については、もうこれは大丈夫だということで先ほど御説明があったかと思いますが、それはその景観も含めて対応をきちんとするというのを、まず姿勢としてそうだとことを確認しておきたいと思います。

それから、都民の意見等で疑問が出ておりましたので、私からも確認させていただきたいのですが、彫刻園のほうはどうなるのかということが3点目。

それから、4点目がフォレストイン昭和館の今後の扱いについて。3点目も4点目も既書いてあるのかもしれませんが、一応皆さんの声にもあるので、その2点は史跡・文化財として質問します。

以上4点が史跡・文化財の観点から。

そのほかの4点ですが、先ほど渡邊委員からの御指摘にもありましたが、GLPという事業者として、テナントへのガバナンスというのはどれぐらい徹底できるのかという観点で、今回の開発にとっては非常にアセスと絡めて重要かと思います。

「周知徹底、働きかけ」という言葉があるのですが、それを「確実な実施を目指す」みたいなことが脈絡で出てくるところが多いのですが、その部分で、先ほども「テナント様」

とおっしゃられていたので、おそらくお客さんのような立場になるのではないかと推測しますが、そのあたり、どれほどガバナンスの効果があるのかという点が、私としては知りたいと思います。

それから、それに当たっては、条件をつけてのテナント募集なども選択としてはできるのかというところも少し気になる点です。

それから、次の点で、別の質問ですが、施設内に進入経路の図がありますが、そちらに、入り口のところには車両をプールするような設備はないのですが、それによって例えば周辺道路に進入前の車が停まってしまうことはないのかという点が気になりまして、先ほどの駐車スペースの問題も含めて、何か計画の中でお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

その点で、道路をGLPさんが設置できるわけではないというのは私も理解していますが、自治体や警察との連携等を取れるのかというところもお教えいただける範囲でいただきたいと思います。

それから、あと2つです。

景観、自然との触れ合いというところが、玉川上水のところと非常に密接な関係がありまして、史跡・文化財、景観、自然との触れ合いというところは、その3つをうまく調和させるような方向性でのお考えを持っていただければと思いますので、その辺、御見解をください。

それから、もう1つまた別の観点ですが、日影について御説明を先ほどいただきましたが、日が当たらないということもありますが、光の害と申しますか、24時間、今までなかった夜の部分の動きがあるので、光を発するとかそういうところに対しての何か対策を取られるのか、教えていただける範囲で結構ですので、お願いしたいと思います。

以上8点、お願いします。

○事業者 ありがとうございます。

GLPでございます。

いくつか、事業者側として答えさせていただくところを、先に回答させていただければと思っております。

まず、彫刻園につきまして、武藤順九先生の彫刻園が現在、ホテルの中から入って、代官山緑地の中で運営をされているという形になっております。こちらにつきましては、基本的にそのまま継続をしてやっていくようなことで、今検討をしております。

工事中はどうしていくかなどについては、武藤順九先生も含めて検討していくこととしております。

それから、フォレストイン昭和館につきましては、運営は私どもではございませんので、なかなか言いづらいところがございますが、昭和館様から、営業につきましては来年の1月末までということで発表がホームページ等で公表されている内容かなと思っております。

それから、テナント様へのガバナンスと、その実施というところがございますが、先ほどお話がありましたとおり、中に入ってくださいテナント様というのは、私どもからするとお客様という形に、おっしゃるとおり、なります。それは事実としてそういう形になります。

一方で、完全にお客様優位で、施設側が全ていいなりで、負けてしまうのかというと、それはそういうことはなくて、中に入ってくださいテナント様は、私どもを含めて、適切な施設運営管理というのは実施をしております。

具体的には、施設ごとにもなりますが、テナントで入っていただいている企業の代表の方、それから、私どもが管理をしておりますので、管理の人間というところで、施設の運営をする会議というものを常々やっております、内容は施設に応じていろいろあるのですが、安全面もそうですし、当然、例えば、トラックの外部でどういったところが危ないよとか、そういったところの情報交換とか、そういったものは適切に運用しながら、きちんとテナント様へのガバナンスを効かせた上で運営をしていく形にしております。

それはこの施設に限らず、既存の施設でも同様でございます。

それから、もう1つ、進入経路につきましては、トラック待機場というものを物流施設のほうは各施設の中に設けております。

トラック待機場につきましては、実は昨年の説明会の中でも報告させていただいた内容ではありますが、まさにおっしゃられるとおり、物流施設があつて、周りの道路でトラックが停まってしまうというのが非常に課題になってくるという形もございますので、私どもはトラック待機場というのをいかに適切につくるかというところについては、全国で今170棟ほど運営をしておりますので、そこできちんと計画をしております。

具体的に申し上げますと、施設ごとのトラックのピークの台数を大体想定しております、大体トラックの平均滞在時間は2時間になりますので、入ってくるピークのトラックの2倍以上のトラック待機場と、もう1つ、車両が実際に停まって荷下ろしをする、バースと呼んでおりますが、そのバースというものを計画しております。

大体今回の施設であれば、3倍程度は設けておりますので、外にトラックが停まることのないような形で運営をしてみたいと思いますし、また、仮に私どもの施設でトラックが外に停まるようなことがあれば、先ほどのガバナンスの話に戻りますけれども、そういったことのないように、きちんとテナント様のほうにも私どもから会議の場を通じてお伝えをして、そこは適切に運営していくという形になります。

事業者のほうで事業として答えられる内容について、先に回答とさせていただければと思います。

○事業者 引き続きまして、残りについてお答えをさせていただければと思います。

まず、昭島市教育委員会との連携が取れているのかということでございますが、今後しっかり対応をしていきたいと思っております。各種、昭島市とはいろいろ話をさせていただいているところであります、この点につきましても同様の話になってくると思っております。

あと、玉川上水の範囲、特に改変することはないということで御説明をさせていただきましたが、もちろんそのつもりでしっかり対応していきたいと思っておりますし、今後、施工業者が決まってくることにはなりますが、その業者に対しましてもしっかりとレクチャーした上で、無用な立入りですとか改変ですとか、そういうことがないように、しっかり監督をしていくことになろうかと思っております。

あとは、景観、文化財、自然との触れ合いの関連というところでございますが、こちら先ほどの御説明の中で少し触れさせていただいているところでございますが、特に玉川上水沿いに関しましては、計画地内の樹木に関しては、基本的には残存、地形もいじらず残存させていくことによって、玉川上水とつながっている箇所に対しての配慮はしっかり対応していきたいと思っております。

そういった観点でも、北側からの景観、要は見え方に関しましても、それら樹木が残ることによって、一定の配慮はできているのかなというふうにはこちらとしては考えているところです。

自然との触れ合いの観点で行きますと、残していく緑地、樹木をうまく活用しながら、周辺の皆様に開放していくような散策路を整備していきますので、そこをうまく使いながら、玉川上水北側にしか緑道としては整備されていないところではあるのですが、今回計画地側にも散策路をつくることによって、両側も使えるような形で、歩きながら自然を感じていただけるような空間をしっかりと整備していきたいと考えているところです。

最後に、日影といいますか、光害の関係についてでございますが、まず1つ、データセンター、あと物流施設そのものは、例えば商業施設とかマンションというような形で窓が多く整備されるものではございませんので、夜間に光が漏れ出ることは基本的には少ない施設かなと考えております。

一方で、散策路として整備していくところに関しましても、特に照明等に関しましては、不要な光を出すようなものを整備していくつもりはございませんので、しっかりその辺は対応していきたいと考えているところです。

また、光を出すことによって、それが害となるような、昆虫類とか哺乳類、生物のほうに対しても一定の配慮がなされるような照明機器の選定をしっかりと考えていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○水本委員 お答えありがとうございます。大体よく分かりました。

その上で、追加ですみません。トラックの待機所を、これまでの実績で、経験値上で分かっているところからしっかり整備していくということはとても分かったのですが、入り口のところの、この施設に入るまでというところの懸念がちょっと払拭されていないので、そのあたりの点をもう少しだけというのと、道路というのが、視察へ行きましたが非常に狭いということで、GLPさんで御対応できないということがあるかと思うのですが、警察署とか自治体との連携というのはこれから取っていかれるのか、それとも、連絡、相談しているのかということも、そこだけお聞かせください。

長くなりまして申し訳ありません。

○事業者 まず、道路の計画、周りの道路について、警察とか地元の道路管理者については、当然相談をした上で、今、計画を進めさせていただいております。

私どもの交通量が増えることによって、周りの交差点がどういう形になっていくのかということについては、事前に交通量調査をした上で、警視庁を含め相談はきちんとやりながら進めてきているというところでございます。

それから、先生から御質問いただいたものは、施設の外の道路の部分の、トラックが来ることによる整備、停めないような、何か場所、駐車場みたいなものをつくれなとか、そういうお話なのかなと思ってはいるのですが、なかなか施設外のところにつきましては、私どもが触れるところではないということはお理解をいただきたいと思っております。

施設側としてできる工夫としては、全てではないですが、例えばバースを予約するシス

テムを私どものほうでつくっておまして、そういうことをすることで、何がいかというと、「何時に行ける」というのを早めに施設側、それから、ドライバー側でお互いに決めておくことで、ドライバー様につきましては、例えば手前のところのサービスエリア等できちんと待っておくことも、休憩等も取ってからこちらに来るということもできます。

逆に、入っていただいた後、中でずっと待たせることがないような形で運用していくことができ、それが結果、周りの道路に対して良い影響を与えていくというようなことは、施設側としてできることとしては、そういったことで周辺道路に対する対策ということは、現状既に取り組み始めている形です。

まっすぐな回答になっているかどうか分かりませんが、そういうことをやっております。

○水本委員 ありがとうございます。

要するに、物理的にという問題ではなくて、別のシステム上で少し工夫も可能は可能ということで、承知しました。ありがとうございます。

これで私は以上です。すみません、お時間を取りまして。失礼します。

○宮越部会長 では、宗方委員、お願いします。宗方委員のあとに、安立委員、お願いします。宗方委員、お願いします。

○宗方委員 よろしく願いいたします。

今日は日影と景観について1つずつお伺いします。

まず日影ですが、評価書案についてですが、8.7-31、32ページのあたりに、日影法規制図というものをお示しいただいているのですが、8.7-32ページから先は、建物単体ごとに出しているのですね。一方で、8.7-31ページとか、それ以前の全体の日影図などは、複数の建物を合算した図として出しております。

なぜこの8.7-32ページから単体で出しているのかと。一緒に建物をつくるのであれば、当然、日影というのは複数の建物を合算したもので示すべきなのが、なぜか単体でやっているという、私が何か条例のルールを勘違いしているかもしれませんが、ちょっとこれは間違いではないかということで確認させてください。

1つずつということで、まずこちらだけお願いします。

○事業者 御質問いただいた点でございますが、8.7-31ページ目以降に関しましては、御認識いただいているとおりです。建物単体で、法規制として守れているかどうかを確認している図面でございます。ですので、平均地盤面から+4mのところ日影の線を書かせていただきまして、法的なチェックをさせていただいております。

それ以前のものに関しましては、8.7-19から30ページまで、こちらに関しましては、平均地盤面±0 mのところ、各棟といいますか、敷地があまりにも広いので、西側の敷地と東側の敷地に分けて、それぞれの敷地ごとの単体で、複合日影という形で予測評価、日影線を書かせていただいているところがございます。

冬至日の時刻別、等時間日影図、それと、そのほかの季節ということで、春秋分と夏至についても、時刻別と等時間の日影図を掲載させていただいております。

以上です。

○宗方委員 ありがとうございます。

日影というものは、1つずつの建物が排出しているものが合算されて周辺の建物などに日影がかかるということになりますので、一般的には1つまとめて複数の建物を1つの事業者が確認申請を取るときには、それらを合わせた状態で確認申請を取っていると思ったのですが、今回のこのような32ページのような単体でやって法規制をクリアする、そういう意味ですか。

○事業者 はい、そういうつもりで書かせていただいております。

ただ、8.7-31ページに関しましては、データセンターの1から4をまとめて日影の線を書かせていただいておりますが、こちらに関しましては、1つの敷地の中で、1団地という形でひとまとめて書かせていただいております。そういった観点で、この図面に関しましては、4棟まとめての日影図となっております。

○宗方委員 法律上クリアしても、今回1つまとめての開発ということで、周辺の住宅地などに日影がかかっておりますので、個別にクリアしているというのではなくて、全部まとめた上で、この団地はどれくらい周りに日影を排出しているかということで示しておくのが誠実かなと思いますが、その辺の御配慮を御検討ください。

前のほうのページの西、東でそれぞれやったもので見ると、おおむねクリアしているのではないかと思います。これらと細かく比較すると大分違うということも、周りの方にあらぬ誤解を招くかもしれませんので、その辺を御配慮いただければと思います。

これはコメントです。

○事業者 ありがとうございます。

○宗方委員 それから、景観のほうですが、先ほどの四百何十件という、周りの方々からの非常に多くの御意見の中に、かなり景観のことも多々御指摘いただいております。特に物流施設L-1というものが、現在の計画上はいたし方ないのですが、巨大なマスとして

ドンとシミュレーションなどに出ておりますが、このファサードの色彩などは、いろいろな条例に従うと、検討するという程度のことしか書かれていないのですね。現状では仕方ない部分があると思いますが。

ただ、どうしてもこの部分が、単純に色彩のガイドラインに合ったものがベタ塗りになったら、いかにルールに従っていてもかなり存在感が強烈になると思うのです。したがって、評価書案の中にも書かれておりましたが、意匠も含めて御検討されるということであったので、そこをいろいろと御配慮いただくことを期待しているのですけれども、今後進める上で、デザインについて、具体的にいろいろなプランを出して、周辺の方々と御検討されるとか、何か周辺の方々にとって、「これぐらいだったら許容できるね」とか、「望ましいね」というような、そういう意匠をひねり出すような、何か先々の計画などを考えておられればいいなと思ったのですが、その辺はいかがでしょうか。

○事業者 建物の外壁といいますか、ファサード、特に高いところのビルですね。

○宗方委員 L-1の南側と東西側かかなり強烈なインパクトがありますので。

○事業者 意匠に関しましては、まさに計画を今、詳細に詰めているところでございます。

当然、行政機関にも御相談させていただいて、確認していただくこともございますので、その中ではしっかり対応していきたいと思っております。

また、色彩に関しましても同様でございます、奇抜な色を使うつもりはございませんので、地域に溶け込む、なるべくなじむような色の選定をしていきたいと思っております。

まさに今検討を進めているところでございます、まだ確定しているものではございませんが、しっかり対応をしていきたいと考えているところでございます。

○宗方委員 釈迦に説法かもしれませんが、色彩というものは単に色だけ選べばよいのではなくて、実際のファサードに塗って、ある光のもとで周りとは対比を見ながら初めて、それが奇抜なのか、許容できるのかということが決まっていきますので、周辺の緑化といったものと併せて御検討、できるだけ現実の出来上がりを想定したものとして検討を進めていただきたいと思います。

コメントです。以上です。

○事業者 ありがとうございます。

○宮越委員 宗方委員、よろしいでしょうか。

では、安立委員、お願いいたします。

○安立委員 私からは3つ質問があります。

まず、評価書案の8.6-105ページの中で、真ん中ぐらいですが、アニマルパスを整備されて、大幅な土地利用改変に対する動物群集の保全に寄与するようなことが書かれているのですが、代官山緑地とその北側の森をつなぐ道路が横断してしまうので、そこにアニマルパスを設置されると思います、これが一体何本で、どのぐらいで、何を想定されているのか、御説明をお願いしたいと思います。

2つ目ですが、8.6-122ページに「自然環境に配慮した池を創造することから、生息環境の回復が見込まれる」と書かれているのですが、今画面に出ている代官山緑地の北側の森林の丸いところかなと想像しているのですが、これは何の生き物の生息環境の回復のために、どのぐらいの大きさで、どういう池ができるのかということをお伺いしたい。

3つ目ですが、8.6-123、隣のページに緑の量の変化の程度というのが書かれています。この計画は土地利用を大幅に改変して、緑の量が減るわけですが、都民からの意見書の回答とかを見ていると、「緑の面積が最終的には20.6%保たれるから」という説明がされていて、緑の質に対する回答というのが一つも見当たらないのです。何をもちて緑、緑があればいいというわけでもないと思うのです。

そういうところで、きちんと緑の質について、どういう植物を植えるつもりなのか、どういう生き物を担保するために、どういう植生を保つというふうに考えているのかというところをお伺いできればと思います。

よろしく申し上げます。

○事業者 ありがとうございます。

3点、順にお答えさせていただければと思います。

まず、アニマルパスの件でございますが、今、画面上で施設配置図が映っているかと思いますが、画面の中央に薄い緑で代官山緑地がありまして、その北側に公園、濃い緑の部分があります。間に道路が通っているというところでございますが、このアニマルパスに関しましては、薄い緑の代官山緑地と濃い緑の間を通す、道路の下を通すトンネルを整備していこうということで、今検討を進めているところでございます。

詳細な検討図としてはまだでき上がっているものではございませんが、ただ、代官山緑地に関しましては、計画地の外側ということでもありますので、なかなか手をつけて改変することが難しいというところもありまして、いろいろ策を練っているところでございます。特に薄い緑と濃い緑の間を通していきたいというところで、検討を進めております。

まさにこちらの濃い緑の公園のところに関しましては、先ほど来御説明をさせていただ

いとおり、原地形、今のもともと使われていたゴルフ場の地形とか、緑地、緑、樹木といったものを残しつつ、更に追加して、計画地内にある比較的良好な樹木に関しましては移植をしたり、あとは低木類に関しましては新植していくような形で、緑地環境として充実化を図っていくということを考えております。

アニマルパスに関しましては、入口、出口のところに関しては、そういった緑地を整備することによって、生き物に対して、姿が余り見えづらいといいますか、隠していけるような環境もしっかりつくって整備をしていきたいという考えを持っております。

続いて、池でございますが、今御質問があった場所というのが濃い緑の中の丸くなっている部分かというようなお話だったかと思いますが、現時点で考えているのはそちらではなく、地域貢献棟、代官山緑地の南側でございます。

こちらの方の修景として池を整備していければというところで考えているところがございます、こちら具体的な池の形状とか深さとか、どのような見せ方をしていくのかというようなところはまだ確定してございませんが、池としては南側の方に整備していくことを考えているというところでございます。

池の対象に考えておりますのは、注目される両生類としまして、カエル類が計画地の中、周辺でも確認されておりますので、それらを対象にした池になればということで考えてございます。

緑の変化というところでございますが、123ページで見ていただいたとおり、20.6%の割合として、敷地としては12.12haの緑地としては最低限確保していくことを考えているということで、地域の皆様にも御説明をさせていただいているところでございます。

この緑地に関しましては、先ほどの文化財のところでもお話しさせていただいたとおり、敷地、特に北側の玉川上水沿いに関しましては、緑地としては、樹木としても、基本的には残していく考えを持っております。

新たに整備していくような緑地に関しましては、今回のゴルフ場内で良好と思われる樹木に関しては、可能な範囲で移植を行い、かなり高木になりますが、そういった樹木を移植していくことによって、現状の緑の環境というものをなるべく維持していけるように、そういう考えのもとに、緑地としての整備をしていきたいと考えてございます。

整備した緑地をしっかり担保していかなければ、生物に対しても配慮していることにはならないので、地域の地域在来種と呼ばれるもの、そういう樹種を、新植するときには選定していきたいと思っておりますし、それらをしっかり維持管理していくことによって生

物が、今回の事業の建物等が全部でき上がったあとに、緑地にそのような生物が戻ってこられるような環境を事業としては整備していきたいという考えを持っております。

以上でございます。

○安立委員 ありがとうございます。

アニマルパスですが、何を目的にするかという、代官山緑地と北側の森を分断する道路がロードキルの原因になるという懸念からだと思いますが、例えば、この道路だけを夜間使わないとか、多分生き物、例えばタヌキとかだと夕方日が暮れた直後あたりがすごく活発に活動する時間だと思うので、例えば午後6時から10時まで道路を使わないとか、そういったロードキルを防ぐような対策は計画されているのでしょうか。

○事業者 道路につきましては、最終的には公道として市のほうに移管をしていく形になっております。そういった中で、その時間帯だけ閉鎖をするということについては、現状考えておりません。

○安立委員 ありがとうございます。

池についても、両生類を保全する池ということでいいと思いますが、カエルとか両生類が動く範囲を考えると、玉川上水に近いほうが、いろいろな生き物との関わりとして池があってもいいのかなと思ったのですが、地域貢献棟のほうに池ができるということで、それについても事後調査でしっかりと、池の存在の意義とか、ロードキルはどれぐらいアニマルパスで防げたかななどの詳細なデータを出していただいて、有効性について、次の別の計画ができたときに、ロードキルをどれだけアニマルパスが防いだのかみたいな実績がとても大事だと思うので、ぜひ事後調査についても検討いただければと思います。

以上です。ありがとうございました。

○事業者 ありがとうございます。

事後調査に関しましてもしっかりと対応していきたいと思っておりますし、今後取れるだろうデータが今後有効性を持って別の事業とかでうまく使えるようなデータになるように、しっかりと対応していきたいと思っております。

○宮越部会長 羽染委員、お願いいたします。

○羽染委員 私から2点教えていただきたいのですが。

まず1点目はそもそもの事業計画についてですが、データセンターについてはDXの時代で需要があるのだろうなど。これも入居テナントが決まっていないということですので、データセンターに関してはお客さんがすぐ入るのではないかと見込むのですがいわゆる物

流倉庫に関してですが、現地も見せていただいた中で、中央道や圏央道までのアクセスが10kmも離れていると、そういうロケーションの中で、果たして3棟つくるほどお客さんが入るのか。余計な心配ですが、3棟必要なのでしょうかというのが懸念というか。その見込みを教えていただければというのが1点目です。

2点目は、先ほどの安立委員の緑の質疑の点ですが、廃棄物の伐採樹木量とか、移植とか植樹に関する意見がたくさん出ていますが、そこをやはり定量的に示していただかないと、都民の皆さんも不安に思うし、本当にこれが担保できるのだろうかというところが不安になると思いますので。

通常、アセス上で私が多く見ているのは緑化計画、例えば6-14から17ページあたりに緑化計画が書いてありますが、そこに都市計画の求められる緑化率、工場の場合は「何%以上確保しなさい」という緑化率があって、それに対して計画の中で「それ以上確保します」という書き方をするのだと思いますが、この評価書案を見ると、最後まで読んでやっと「20.6%確保します」というのが出てきて、書き方が分かりにくいのです。

その辺を評価書のときは工夫していただいて、できるだけ数量的に、ゴルフ場ですから高木は限られた数しかないと思いますので、「何本倒して、その代わりにこれだけ移植する」とか、「これは移植して、代わりにこれだけ植樹するのだ」という説明のほうが非常に分かりやすいなということなので、その辺の書き方を工夫していただければ、都民の皆さんも納得するのではないかと思います。

以上です。

○事業者 ありがとうございます。

まず、緑化率といいますか、どれだけ緑を残していくのかというところを、評価書の中の早いところ、事業計画のところですっきり書き込むということに関しましては、対応を考えていきたいと思っております。

ごみの量に関しましては、どれくらいの伐採本数、どれくらい切つてというところに関しましては、まだ今後検討という形で見解書でも書かせていただいているところでございます。

今回、廃棄物の量として出させていただいているのが、緑の構成上、一定規模の中にどれくらいの樹木があるのかというところは、調査の中で把握しておりますので、それを面積的なところで整理した中で、改変される部分の面積がどれくらいか、それに対してどれくらいの樹木の量になってくるのかというところを、計算させていただいているところで

ございまして、一本一本、どれくらいでというところまでは計算していないところがございます。

○羽染委員 出し方のところは理解したのですが、いわゆる改変面積に対して樹木の高さを掛けて、伐採樹木量を算出されるというのは理解したのですが、やはり一般の市民にすると、「何本切って、どのぐらいの廃棄物量が出てくるのか」という説明のほうが分かりやすいのですが、使われた過程をきちんと丁寧に、アセス図書というのは住民の方に分かりやすく説明するという趣旨のもので、分かりやすいように書いていただければ、こんなに意見が出てこないかなと思います。

○事業者 ありがとうございます。できる範囲で対応していきたいと思います。

○事業者 1つ目の、物流で3棟必要か否かというところですが、現時点ではテナントさんは決まっていない状況ではあるのですが、需要の予測という意味では、3棟きちんと埋まっていくような容量が必要になってくるだろうと思っております。

全国的に、特に関東、関西が多いですが、物流施設が非常にたくさんつくられているような状況です。昨今ですと、冷凍冷蔵の機能を持った物流施設などもできておまして、一時期コロナ禍のときにはECがすごく発展をして、携帯等で物を買われることで物量が増えて、物流施設が増えていったという経緯もあるのですが、どうしても物の動きというのはかなり多くなってきていて、多頻度になってきているということもありますのと、あとはやはり、古い物流倉庫というものが今だんだん新しくなってくるというような大きな転換というところも来ておりますので、そういったところも含めて、需要としては3棟分は十分に埋まると考えております。

○羽染委員 現地を見せていただいて、周りに何施設か物流倉庫があったので、余計な心配をしましたが、有効的に使われるのであれば結構です。

○宮越部会長 ほかに委員の皆様からいかがでしょうか。

私からよろしいですか。

私の担当する地盤と水循環について質問したいのですが、まず調査計画書の段階で、地下水に関する記述であまり浅層地下水、深層地下水の区別がなかったのですが、今回、評価書案ではきちんと分けていただき、特に8.4-16ページにある、昭島の東京都の地盤沈下観測井の結果を使っていただいて、浅層地下水は具体的に①という帯水層になっていて、立川礫層地に存在しますよということ、あと深層地下水はそれより深いものと分けていただいて、こういう書き方はとてもいいなと思いました。

また、昭島市の地下水流動調査報告書で浅層地下水と深層地下水の流れ方の違いも書いていただいて、これはいいと思いました。妥当だと思います。

その上で、浅層地下水は、影響を与えるものとして、浅井戸であったり、湧水が考えられる。深井戸は昭島市の水道水源の井戸、もしくは深井戸に関係するということで切り分けができるので、分かりやすいと思います。

質問として、深層地下水、浅層地下水を分けて御質問したいと思います。

まず、深層地下水ですが、調査計画書の段階から変更点として、観測地内、敷地内の深井戸の利用はない、やめると、地下水の揚水はしないということで、深層地下水の直接的な影響は考えにくいという御説明を評価書案の中でいただいているのですが、それは私は妥当だと思います。

ただ、1点質問ですが、先ほど資料1で御説明いただいた昭島市長からの意見として、水道水源も含めた深井戸への影響は見ないのか、モニタリングしないのかというのがあったのですが、それについてはいかがですか。

○事業者 深井戸に関しましては、現時点で調査をするつもりはございません。

浅井戸に関しましては、今回計画地の外周のところで観測の井戸を設けておりますので、それは工事中、それと、でき上がった完了後1年程度は経過を見ていくということは考えております。

○宮越部会長 敷地内に深井戸が何本かあって、今回もこの事業では使わないというけれども、本当に何も使わないのですか。そのままにしてしまう感じですかね。

○事業者 確か、昭島市にやめる場合はやめるで、廃止届みたいなのをたしかやっていたかなければいけないと思いますので。現状、場所をいうとあれかもしれませんが、私どもで管理をしていないので、現在使われている事業者様のほうで最終的に私どもへ引渡しを受けますので、その時点でどうされるのかというところは、現状まだ決まっていないということかな、と思います。

○宮越部会長 わかりました。もし可能であれば、その井戸で水位を観測して、昭島市に情報を提供するとか、そのような活用も考えられるのではないかなと思ったのですが井戸をクローズするというのも一つの選択だと思いますが、例えばそういう深層地下水の環境について、水位を観測して報告することであったり、もしくは、防災用の井戸として活用するとか、そういった地域貢献もあり得るのかなと思ったので、コメントとしてお伝えします。

あと、基本的には、深層地下水への影響は、浅い今回の工事の深度からすると、水源への影響は考えにくいと思いますが、ただ、今回、8.4-16ページに示していただいた帯水層区分というのは、あくまでも昭島の地盤沈下観測井での話であって、それが、全く同じ地質がこの周囲にずっとつながっているわけではないのですね。

だからこそ、今回ボーリング調査をしていただいて、地域の地質をきちんと把握していただいていると思うので、例えば、浅層地下水と深層地下水を分けている間にある難透水層が、ずっと同じ層厚で同じように分布しているわけではなくて、あるところでは連続性が悪かったり、あるところでは層厚が薄いということもあり得ると思うのです。

ですから、特に昭島市は地下水に対して非常に関心が高い地域ですから、特に慎重な対応として、せっかく井戸があるのであれば観測に活用するとか、そういった対応もあり得るのではないかと思います。

次は、浅い地下水、浅層地下水についてコメントさせていただきます。

事業者さんの説明として、掘削深度や構造物の設置深度が地下水面より浅いから浅層地下水には今回影響しないのだというロジックで説明されていると思いますが、私はそれには大きく異論があります。

何も浅層地下水に影響を与えるのは、その深度での揚水とか構造物、掘削だけではなくて、表面からの浸透、雨水浸透のプロセスが変われば、当然そこでの地下水面の高さに影響しますから、それは浅層地下水に影響を与えます。

ですから、今回、地下水涵養量が変わるということで御説明をいただいていると思います。ですから、そのことが浅層地下水に影響を与えることは十分にあり得ると思いますので、掘削深度が浅いから浅層地下水に影響を与えない、その考えは少し改めていただいたほうがいいのではないかと思います。

その上で、周辺の湧水や井戸の状況を8.4-22ページに調べて書いていただいていると思います。これで深井戸は書いてあるのですが、浅井戸はどれですか。青い丸が浅井戸ですか。

○事業者 青い丸は災害用の井戸になりますので、浅井戸かと言われると一概にそうとは言いきれないです。

○宮越部会長 周辺の井戸というのは、例えば雑用水の利用を含めて、災害用の井戸であったり、企業の井戸だけではなくて、一般家庭用の井戸というのはないのですかね。

というのは、本計画を考えると、浅井戸、浅層地下水の影響はあり得るのではないかと

思うので質問しています。

○事業者 一般の御家庭のほうで使われている井戸ということでございますが、こちらも分かる範囲でいろいろ資料をあさってまとめているところで、そういった資料は今のところ我々のほうでは確認できていないというところでございます。

○宮越部会長 周りの方への聴き取りみたいなことはされているのですか。

○事業者 いえ、特にそこまではしてございません。

○宮越部会長 全くないのであれば、見当違いであれば、全然地下水面が深いから、そんなの使わないよという地域であればいいのですが、そんなに地下水面が深いわけではないですね。だからあり得るような気もするので、きちんと周辺の方に聞くとか、市役所、昭島市に相談するとか、そういったことはしたほうがいいのではないのでしょうか。

調査計画書への意見としても、この地域は地下水への関心が高くて、「湧水や井戸もあるから、きちんと見てくださいね」とお願いしたと思いますので、慎重な対応をお願いします。

○事業者 承知いたしました。

○宮越部会長 あとは、雨水浸透施設、今回の表面の被覆形態が大きく変化しますから、雨水浸透施設がこの地域の水循環への影響を低減するということが非常に重要になると思います。

委員としても非常に興味を持っているのですが、雨水浸透施設の設置状況というのは全く書いてないと思いますが、どこにどういったものをどれぐらいの規模で設置するかについて見通しがあれば教えてください。

○事業者 具体的な絵を掲載していないのは申し訳ございません。今まさに検討しているところでございます。1か所に大きなものを設置するというわけではなく、各棟の建物回りとか、道路のところに浸透施設を分散させて整備していくことを検討しているところでございます。

なので、個々の大きさもそれぞれになってくると思いますが、分散させることによって、先ほど浸透のプロセスとして、変化すると浅層地下水のほうに影響があると、まさにそれはそうなのだろうという認識は持ちつつ、分散させて浸透施設を整備していくことによって、できる限り1か所にだけ浸透させるというわけではなくて、今回の計画地全域でもってなるべく分散させて、一定量ちゃんとしっかり浸透させていくという考えを持って動いているところでございます。

○宮越部会長 分かりました。

分散するという事は妥当だと思いますが、こういった根拠でそれは設置するのですか。広く分散するというのですが、何を根拠に、何を指して分散するのでしょうか。漠然としていて、若干、分散するといってもどうするのだろうという疑問はわくと思うのですが。

なかなか、どんなふうに設置するかというのは計画段階で難しいと思うのですが、委員としてお願いしたいのは、この地域の地下水面をきちんと、地下水の現況を把握した上で設置してほしい。今の地下水面の形状を、地下水面の分布を把握した上で設置していただきたいと思っています。

というのは、地下水への影響を考えた場合に、地下水の高さだけではなくて、それぞれの高さの関係、ある地点の高さの関係も地下水への影響を示しています。その関係が分かれば地下水の流れが変わりますから、流れも意識して施設を設置していただきたいということです。

具体的には、例えば、今、地下水面の高さを8.4-25ページで報告していただいていると思いますが、この高さだけではなくて、先ほど昭島市の地下水流動調査報告書、8.4-17ページに、地下水位等高線が書いてありますが、ぜひ同じようなものをつくって、十分に観測地点があるのでできると思いますので、つくっていただいた上で、現況の地下水面はこうなっているから、地下水面のことを考えてこういったところに設置しますよということをぜひやっていただきたいと思います。

例えば、今、地下水の流れの方向として、昭島市の報告書のスケールで矢印1個ぐらいにこの地域はなってしまうと思いますが、北西から南東方向に流れているような感じですよ、おそらく、矢印の方向として。これが本当にこの方向でいいのか、それとも、もっと細かく見ると違うのか。

実際、地下水は高いほうから低いほうへ流れますから、設置しなければいけないところ、特に設置に気をつけなければいけないところは、周りの影響を考える、下手側になりますよね。そういったことを踏まえてきちんとやっていただいたほうがいいのではないかと思います。

ぜひ等高線図をつくっていただいて、それを踏まえて設置したということをご示していただきたいと思いました。

○事業者 分かりました。ありがとうございます。

実際に地下水の水位を見ていきますと、昭島市でまとめていただいている浅層地下水の

流れ、北西から南東へ流れる、そういった地下水の高さが見えてきておりますので、ぜひ先生のおっしゃってくださった内容についてはしっかり資料としてまとめていきたいと思っております。

○宮越部会長　お願いします。

細かい点ですが、重要なところとして、先ほどの表面流出量のところですが、計算していただいて数字を出していただいているのですが、ピークの際の表面流出量を計算していただいていると思いますが、そのあとのところで、ずっと表面流出量が増える、どの程度増える、数値を具体的に書いて、表面流出量が増えるという説明ですが、これはあくまでも計画した降水量に対する表面流出量なので、そこはきちんと書いていただいたほうが誤解を招かなくていいかなと思います。

計画している降水量は、特に気をつけなければいけないような非常に大きい降水量ですね。そこをきちんと書いていただいたほうがいいかなと思いました。

最後1点、長くなりますが、地盤と水循環には直接関係ないですが、先ほどの質問とちよっと関係するのですが、調査計画書ではデータセンターの冷却に水を使うという説明で、水は蒸発を想定していたと思います。

今回、計画変更で、水は使わないよ、空冷にするよということですが、一見考えると、蒸発では水の層変化で、潜熱なので、周りへの熱の影響は少ないと思うのですが、今回は空冷だと、周りに熱を放出しますよね。それがどの程度なのか、どの程度影響あるのか。

データセンターの熱量自体が分からないですし、全然見当違いであれば見当違いです。全然そんなの小さいですよという説明でいいと思うのですが、その辺の見通しを教えてくださいました。

というのは、今回、地下水の影響を懸念して、深いところの水は使わないということが、ほかの環境の悪化につながってしまったり、トレードオフの関係になってしまったり、それは問題だと思うので、御確認させていただきました。

○事業者　ありがとうございます。

熱に関しましては、事業者側としましても、心配点としては認識してございまして、今回、風のほうをCFDで検証させていただいておりますので、それと併せて、熱の収支みたいなものに関しましては検証を併せてやっております。

その際に、設備関係のものからどれくらいの熱量が出てくるのか、想定値ではございまして、設定をさせていただきます、一定の条件下でどれくらいになるのかという検証を

させていただいておりますが、現状、今のゴルフ場としての状態のときと、計画地が成立して、建物ができ上がって設備が動いている状態というところで、熱収支、地表面での熱の感じがどう変わってくるのかというところを検証したところ、ほぼ変わりはない、若干変わるところは当然、設備ができ上がりますので熱の収支はあるのですが、大きな熱の変化というものまでは検証されなかったというところが事実としてございまして、これも説明会等で地元の方からも御質問をいただいておりますので、同じ回答をさせていただいているところでございます。

○宮越部会長 わかりました。ありがとうございました。

ほかに委員の皆様からいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(無し)

○宮越部会長 では、その他、本日欠席されている委員の皆様からコメント等を事務局は預かっておられますか。

○石井アセスメント担当課長 本日御欠席の日下委員から大気汚染に関するコメント、廣江委員から騒音・振動に関するコメントをいただいております。

また、途中退席されている保高委員からもご質問を預かっています。保高委員の質問に対しては、「次回答えてくれればいい」という形でコメントもいただいております。

それでは、日下委員からのコメントを読み上げさせていただきます。

見解書を拝見すると、交通量が増えることによる大気汚染を心配する意見が多いので、次回以降お尋ねしたい。

続いて、廣江委員からのコメントです。

見解書における住民からの意見を拝見すると、当該施設や周辺交通など、複数の発生源に対する課題や問題点への指摘が多い。これらのことも踏まえ、次回以降の部会で事業者にご質問させていただきたい。

続きまして、保高委員からの御質問です。

土壌汚染の調査は、土対法及び環境確保条例に従って実施されると理解しました。土地の履歴調査で一部有害物質の取扱いが確認されて、計画地の東側敷地で農薬希釈作業付近と給油施設付近、西側敷地で昭和20年頃の整備工場等の敷地とされる区域の範囲に絞り込めていきますとあります。

東京都の担当部署と相談をした上で、これから現地調査の計画を立案されると思いますが、回答は次回までで結構ですので、3点質問、1点コメントさせてください。

質問 1、土地の履歴調査の結果について、年代別の航空写真や土地履歴図があると思いますので、情報をいただけないでしょうか。

質問 2、地歴調査の結果、選定した調査対象物質を御教示ください。

質問 3、調査は汚染のおそれが多い地域、汚染のおそれがある地域、汚染のおそれがない地域として分類されると思いますが、物質ごとの範囲について御教示いただければと思います。法令に基づく調査として実施される範囲の情報を適切に公開していくことで、地域の皆様の安心につながると理解しております。

コメントとして、対象地内に地下水位の監視井戸を設けられると見解書から読めますので、水位だけでなく、地下水質をモニタリングしてはいかがでしょうか。特に上流側、下流側でモニタリングできると、事業対象地の影響も把握できるので、地域の皆様も安心されると思いますので、御検討をよろしく願いいたします。

以上が保高委員からの御質問とコメントになります。

以上です。

○宮越部会長 ありがとうございます。

では、ただいまいただいた今日欠席されている委員からのコメントについては、次回に回答いただくということでよろしいでしょうか。

○石井アセスメント担当課長 次回の回答でよろしいかと思えます。

○宮越部会長 分かりました。

では、事業者は次回御回答をいただきたく、お願いします。

ほかに御質問、御意見等、委員の皆様お願いします。

○柳会長 1点だけ確認ですが、先ほど宮越部会長が質問された8.5-19ページの表面流出量の変化の程度の4行目、5行目に書かれている雨水浸透施設というのは、基本的には建物の屋根の上に降った雨がそのまま落ちてくる可能性があるわけです。

そうすると、浸透ますを地面につくっていく、そういうようなことなので、建物のそばに作らないと、それはちょっとまずいということで、お考えになっているということですよ。建物ごとに分散させてということですね。

もちろん、従来はゴルフ場だったので、そのまま地下浸透していたと思いますが、建物があることによって直接どっと落ちてくる部分を浸透ますで受けていこうというようなことですが、そうすると、理解はできるのですが、いろんなところに浸透ますをたくさんつくっていかねばいけないので、それがちゃんと地下浸透をうまくしていくかどうかで

すね。

それを確認しないと、なかなか、浸透ますをつくって、そこで公共用水域には行かないですよとはなかなか行かなくて、そこら辺で溢れてしまったりする可能性も、昨今の集中豪雨的なもので考えると、過去のデータがあまり使えないのではないかと。

今のところは過去のデータに基づいて降水時のピークを考えていますが、これからの時代はそれでは対応できなくなっていくのではないかと。その点がちょっと心配なので、浸透ますをつくるにしてもかなり大きなものをつくっていかねば対応していけないのではないかとという危惧をちょっと持っております。

これから計画をつくられるので、いろいろと検討していただければと思います。

私からは以上です。

○事業者 ありがとうございます。

当然、昭島市としっかり協議、対応を考えながら、しっかりした計画を立てて設計をしていければと考えてございます。ありがとうございます。

○宮越部会長 ほかに委員の皆様からいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(無し)

○宮越部会長 では、ほかに御発言がないようですので、本日の審議は終わりたいと思います。事業者の皆様、ありがとうございました。

○事業者 ありがとうございました。

○宮越部会長 事業者の方は退室してください。

(事業者退室)

○宮越部会長 では、最後に「その他」ですが、何かございますか。よろしいでしょうか。

(無し)

○宮越部会長 それでは、特にないようですので、これをもちまして第二部会を終わりたいと思います。皆様、大変ありがとうございました。

傍聴人の方は、退出ボタンを押して、退出してください。

(傍聴人退室)

(午後 3 時 46 分 閉会)